

展示

観賞温室第2室 企画展示

- 7月20日(月・祝)まで
「絶滅危惧植物展～いのちをつなぐ～」
- 7月23日(木)～9月6日(日)
「食虫植物展～葉のかたち・葉のちから～」
- 9月9日(水)～11月15日(日)
「ハーブ展」くらしの中のハーブ
・第1部「香りと生活」9月9日(水)～10月12日(月・祝)
・第2部「健康と植物」10月14日(水)～11月15日(日)

観賞温室第3室 1階展示

- 6月30日(火)～7月12日(日)
「里山と人里」
出展：小国生物友の会
- 7月14日(火)～8月2日(日)
「植物色図鑑」色サンプル展3
出展：植物色図鑑
- 8月4日(火)～8月23日(日)
「江戸の風物詩」
出展：はまなす(日本折り紙協会新潟支部)
- 8月25日(火)～9月6日(日)
「博物館実習生展」
- 9月9日(水)～9月27日(日)
「レカンフラワー -季節の花たち-」
出展：花はなくらぶ
- 9月29日(火)～10月12日(月・祝)
「いやしのハワイアンキルト」
出展：伊藤真里子ハワイアンキルト教室

〈作品展示募集!〉花や緑に関連した作品を県立植物園観賞温室に展示してみませんか?展示募集期間は平成28年1月4日から3月6日のうちの2週間程度。詳しくは植物園企画課までお問い合わせください。

特別展示

- 7月14日(火)～9月6日(日)「熱帯果樹・タネ展」
当園保有の珍しい熱帯果樹や世界のかわったタネの展示。
会場：観賞温室3室2階
- 9月26日(土)・27日(日)「秋のいけばな展」
新津華道連盟・新潟県立植物園共催
会場：花と緑の情報センター

●観賞温室利用案内

開館／9:30～16:30(入館締切16:00)
入館料／大人600円、シルバー(65歳以上)500円、高校生・学生300円(要学生証提示)、小中学生100円
※土日祝日は小中学生の入館料無料

●観賞温室開館カレンダー(■休館日)

7 July							8 August							9 September						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
・	・	・	1	2	3	4	・	・	・	・	・	・	1	・	・	1	2	3	4	5
5	6	7	8	9	10	11	2	3	4	5	6	7	8	6	7	8	9	10	11	12
12	13	14	15	16	17	18	9	10	11	12	13	14	15	13	14	15	16	17	18	19
19	20	21	22	23	24	25	16	17	18	19	20	21	22	20	21	22	23	24	25	26
26	27	28	29	30	31	・	23	24	25	26	27	28	29	27	28	29	30	・	・	・

●交通アクセス ※駐車場無料(350台収容)

高速道路／磐越自動車道新津ICから国道403号三条・加茂方面へ約15分
一般道路／(新潟方面から)国道49号茅野山ICから国道403号経由約20分
J R / 信越線古津駅から徒歩約25分
バス／区バス:新津駅東口から「新津駅西口」行き
「美術館・植物園前」下車徒歩約1分
新潟交通:新津駅東口から「矢代田」経由白根・湯東営業所行き
「新津美術館入口」下車徒歩約10分

イベント

夏の夜間開園

8月14日(金)・15日(土)
温室開館時間を20:30まで延長(入館締切20:00)
夜に咲いて、香りを放つ花など、昼間とは違う植物の夜の姿を観察しよう!
パッションフルーツやドラゴンフルーツなどの熱帯果樹の試食、ドリアンのおいをかぐコーナーもあるよ!(レストランにて18:00～無くなり次第終了)
●夜の熱帯植物解説／熱帯植物ドームで18:00～随時

秋の植物園まつり

9月19日(土) ★9:30～16:00 温室入館料無料
●オオオニバス試乗体験 ●植物素材を使った体験教室
●園芸相談 ●物販(植物・食品)など
※詳しいイベントスケジュールは9月上旬に当園ホームページに掲載予定です。

敬老の日のシルバー(65歳以上)温室入館無料デー

9月21日(月・祝)

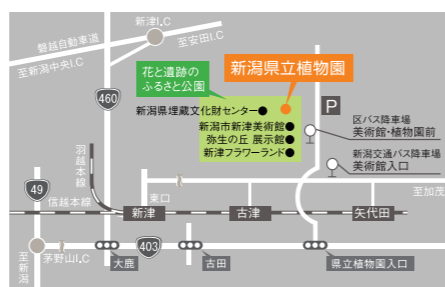
「水と土の芸術祭2015」ガイドブック提示による入館料の割引

当園では第3回「水と土の芸術祭2015」(主催:水と土の芸術祭2015実行委員会)の開催に協力し、ガイドブックの提示により温室入館料の割引を行います。
期間:平成27年7月18日(土)～10月12日(月・祝)
割引対象:大人600円、シルバー(65歳以上)500円を480円に割引

新潟県立植物園友の会
平成27年度
会員募集

植物に興味があり、植物園の事業・活動に賛同する方の会です。平成27年度の会員を募集します。詳細は植物園(TEL.0250-24-6465)までお問い合わせください。

- 年会費 ●個人会員 2,000円 ●賛助会員(一口) 10,000円
●ファミリー会員 3,000円 ●団体会員 5,000円
※4月より翌年3月まで。年度途中入会での割引はございません。
- 会員特典 ●植物園だよりなど印刷物の送付
●観賞温室入館無料 など



新潟県立植物園

〒956-0845 新潟市秋葉区金津186番地
TEL.0250-24-6465 FAX.0250-24-6410
Eメール botanical@greenery-niigata.or.jp
ホームページ http://botanical.greenery-niigata.or.jp/
指定管理者 国際総合学園・都市緑花センターグループ



観賞温室第2室 企画展示

食虫植物展

7/23 (木) 9/6 (日)

～葉のかたち・葉のちから～

ウツボカズラやハエトリソウなど、人気の食虫植物を多数展示!
今年は植物の重要な器官である「葉」に注目!虫をとらえる食虫植物の葉をはじめ、いろいろなかたちの葉を紹介するぞ。葉がもつしくみやはたらきも知ることができる展示だよ。この夏は、葉についてくわしくなろう!



サラセニア

ウツボカズラ

ハエトリソウ

観賞温室第2室 企画展示

9/9 (水) 11/15 (日)

ハーブ展
くらしの中のハーブ

9/9 (水) 10/12 (月) 第1部「香りと生活」 10/14 (水) 11/15 (日) 第2部「健康と植物」

ハーブは、薬用、料理、香料など多くの用途にわたる多様な植物を含み、古くから人間の生活に寄り添ってきました。展示では、ハーブをふんだんにつかった庭園で、代表的なハーブ、料理などに用いられている身近なハーブを中心に紹介。第1部では香り、第2部では健康をテーマに、ハーブを取り入れた生活を提案します。



パイナップルミント



ラベンダーゼーン

ゴールデンタイム



17年前(平成10年)に空撮した植物園

園内
ウォッチング

番外編●空から見た植物園

植物園の上空からの景色を見るとまず目に入るのは、中央の玉ねぎ形や不思議な形の建物ではないでしょうか。こちらは当園自慢の観賞温室で、通路でつながった3つの温室からなります。

玉ねぎ形の温室は高さ30m、直径42mの国内最大級の熱帯植物ドーム(第1温室)で、落差15mの滝や550種、約4,000株の多種多様な植物をご覧いただけます。

その右下の第2温室では、年9回の企画展示を開催し、新潟県の園芸文化や産業、植物学など、様々な切り口で植物の魅力を紹介しています。夏休み期間中は食虫植物展を行います。また世界各地の水草を美しく植栽した「水中庭園」もあります。

ドームの左下の第3温室では、花や緑に関連した団体の作品や季節の植物を展示しています。また、1階のレストランや休憩

コーナーは無料エリアにあります。

園内は池とそのまわりの芝生が広がるエリアがオススメです。夏はスイレンやミソハギなどが水辺に彩りを添えます。周囲を木に囲まれた静かな環境でのんびりと過ごせます。一周約1kmの園路を散策しながら季節ごとの植物もお楽しみいただけます。

植物園を含むこの辺り一帯は「花と遺跡のふるさと公園」と呼ばれています。ご覧いただけるように、新潟市新津美術館をはじめ、古津八幡山弥生の丘展示館、新津フラワーランド、新潟県埋蔵文化財センターが近隣に所在します。当園で植物を觀賞した後は、アートや遺跡に触れたり、花の買い物もできますよ。皆様ぜひご来園ください。(村田亜希子)



花は同じサトイモ科のミズバショウに似ている

園内
ウォッチング

温室●クワズイモ (*Alocasia odora*) サトイモ科

見た目はサトイモ、だけど名前はクワズイモ!?

初めて植物園でクワズイモを見た時、懐かしい記憶が蘇りました。私は幼い頃からよく祖母と一緒に畑へ行き、朝露の溜まったサトイモの葉を手ではじく遊びが大好きでした。

植物園にあるクワズイモの葉は一見サトイモにそっくりですが、光沢があり、イモ(根茎)の部分が地上に出ています。

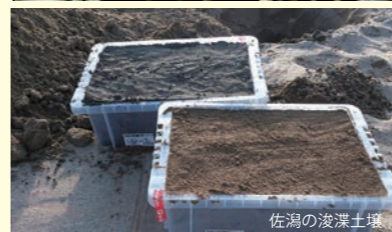
クワズイモの分布は沖縄本島より南、東南アジアなどであり、約70種類ほどもあります。多年草で、茎は肥大して短く、地上および地下にあります。花の集まり(肉穂花序)をつけ、その見た目はミズバショウによく似ています。

さて、クワズイモとは名前の通り「食べられないイモ」であり、シュウ酸カルシウムを含んでいるので、食べると口の中がただれてしまいます。しかし、葉の見た目の美しさ(ハート型が多い)から、学名のアロカシアの名で販売される観葉植物として人気があります。可愛い鉢植えも素敵ですが、植物園で大きく育ったクワズイモを間近で観察してみませんか?(加藤幸子)

葉はサトイモよりも光沢がある



佐潟に自生するヤナギトラノオ



佐潟の浚渫土壌



魚沼市で行っているオキナグサの植栽

NEWS 1

佐潟および魚沼市での保全活動

当園では絶滅危惧種を栽培・育成する活動(生息域外保全)を環境省や(公社)日本植物園協会と連携し行っていますが、絶滅危惧種や多くの生き物が集う環境を保全する活動(生息域内保全)にも協力しています。

具体的には、新潟市の佐潟で新潟市と共に2008年度から希少植物の調査やヨシ刈りによる影響についての調査を行っています。昨年は水質改善を目的とした底泥の採取作業が行われ、今年度からその浚渫(しゅんせつ)土壌に含まれる種子から発芽する植物(埋土種子植物)の調査を始めた他、希少植物の生育環境調査も開始しました。

また、魚沼市のオキナグサ保全活動は、2004年に起きた中越大地震の翌年から地震被害を受けたオキナグサの自生地の復興を魚沼市や地元の小学校や団体と共に行っています。今年で活動10年目を迎え、市や地元の広神西小学校、地主の方々の他にも多くの団体(NPO法人魚沼交流ネットワーク事業部、(一財)魚沼市地域づくり振興公社、下條コミュニティ協議会)も協力いただけるようになり、オキナグサだけでなく自生地の里山環境を学び、活用する方向へと発展しています。

生息域内保全は、対象とする生き物だけを保護する生息域外保全と異なり、環境そのものを保全するため、そこに住む人たちの協力が不可欠です。そのため、対象とする生き物や環境について地域の方々へ解りやすく伝え、それらを地域の魅力として生かしていただければと考えています。(久原 泰雅)

NEWS 2

「のとキリシマツツジガイドブック」を出版しました

日本にはヤマツツジ、サツキ、キシツツジのような観賞価値の高い常緑性ツツジが自生し、古来より園芸的に利用されてきました。なかでも、江戸時代のツツジ園芸ブームにおいて、最も人気のあった品種は薩摩國霧島山からきた「霧島」であったことが知られています。この時代に発達した「霧島」に類似の品種は、現在、江戸キリシマ品種群と呼ばれていますが、現存品種と古木はほとんど残っていないのが現状です。

当園と島根大学植物資源学部との共同調査・研究によって、石川県能登地方には、「のとキリシマツツジ」と呼ばれる江戸キリシマの古木が民家の各戸に500本以上存在することが明らかになりました。全国的な分布調査やDNA分析の結果から、能登へは江戸や関西から移入され、その園芸文化と品種伝播においては北前船の影響も推察されること、また、能登地域独自に発達した系統を含むことも解明されてきました。ツツジやアザレアの日本有数の産地でもある新潟県においても、今後の品種改良の材料や生産品目としての利用が期待されます。

この度、これまでの研究成果や、ツツジの魅力や歴史を一般の方にも分かりやすく解説した「のとキリシマツツジガイドブック」を出版いたしました。関係機関や全国に植物園に配布し、今後販売もはじめる予定です。

(倉重祐二)

